

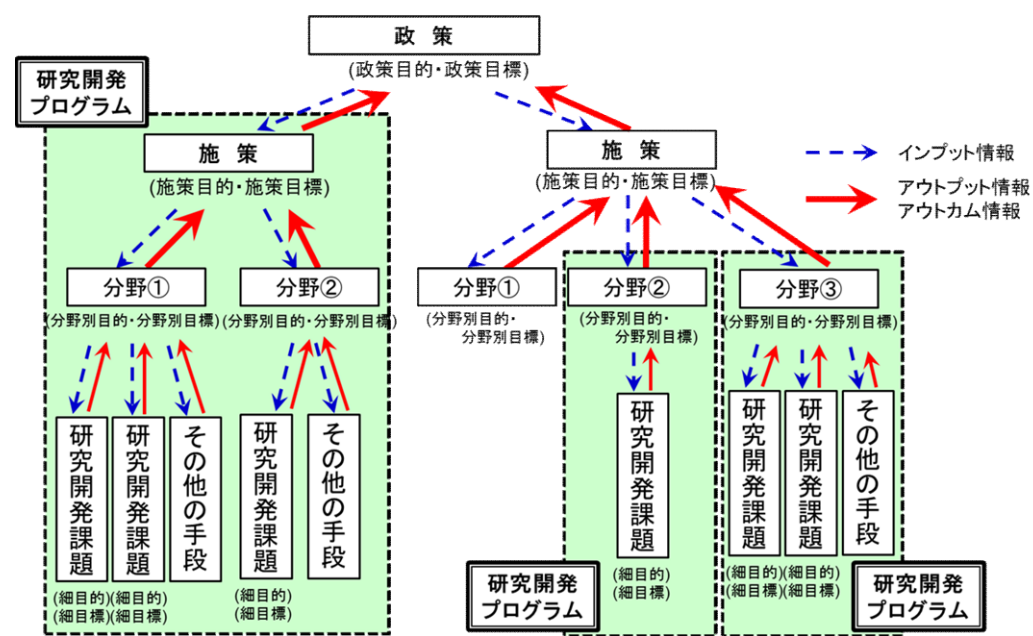
# 研究開発プログラム評価について

## 検討経緯

- 平成28年3月1日：第56回研究計画・評価分科会  
当分科会における研究開発評価については、研究開発計画に掲げる目標ごとに俯瞰的な評価を行うべきではないか。
- 平成28年11月25日：第59回研究計画・評価分科会  
「研究計画・評価分科会における評価の在り方」の方向性について検討し、研究開発計画に定める目標の実施・達成状況について、第5期科学技術基本計画の期間中に俯瞰的な評価を行うこととした。
- 平成29年2月8日：第60回研究計画・評価分科会  
「研究開発計画」を策定。「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（平成28年12月21日内閣総理大臣決定）を踏まえ、これまで議論してきた俯瞰的な評価を中目標を単位とする研究開発プログラム評価として実施することを決定。
- 平成29年8月21日、12月22日、平成30年4月13日  
第62、63、64回研究計画・評価分科会

政策評価をベースとした研究開発プログラム評価の実施方法、様式等に加え、試行的に参考指標として我が国全体の状況を把握するための指標案を検討。

- 『研究開発プログラム』とは  
研究開発が関連する政策・施策等の目的（ビジョン）に対し、それを実現するための活動のまとめりとして位置づけられる。
- 『研究開発プログラムの評価』とは  
・政策立案者や推進する主体等の行動及びその結果について評価を行うことにより、プログラムの改善や次のプログラム立案のための示唆を得る。



「国の研究開発評価に関する大綱的指針」より抜粋

政策体系上の研究開発プログラムは、運用する組織・機関のガバナンスの下で、様々な範囲の「研究開発プログラム」が設定可能

# 研究開発プログラム評価をめぐる状況

## 1. 他省庁における研究開発プログラムの実施状況(平成30年7月31日評価専門調査会(内閣府))

研究開発を行う主要省庁を対象とした「国の研究開発評価に関する大綱的指針」のフォローアップ調査結果によると、複数の研究開発課題をまとめた比較的小規模の活動のかたまりをプログラムとしているケースがほとんどであった。

※他省庁の研究開発プログラムの単位例

- (1) 研究開発課題から実証試験まで複数の研究開発課題を含むもの(複数課題プログラム)を一つの研究開発プログラムとするケース(経済産業省)
- (2) 予算の項目(制度や領域等)単位を研究開発プログラムとするケース(環境省)

## 2. EBPM(証拠に基づく政策立案)の推進

EBPM(Evidence-based policy making)とは、政策目的を明確化させ、その目的のため本当に効果が上がる行政手段は何かなど、「政策の基本的な枠組み」を統計や業務データの分析結果等の客観的な証拠に基づいて明確にするための取組のことで、政府全体でEBPMの実践が求められているところ。また、エビデンスを充実させるため、内閣府において、情報の相互接続及び分析を可能とする総合的なデータベース(エビデンスシステム)の構築が検討されており、公的統計に係る情報の集約、活用等も検討されている。

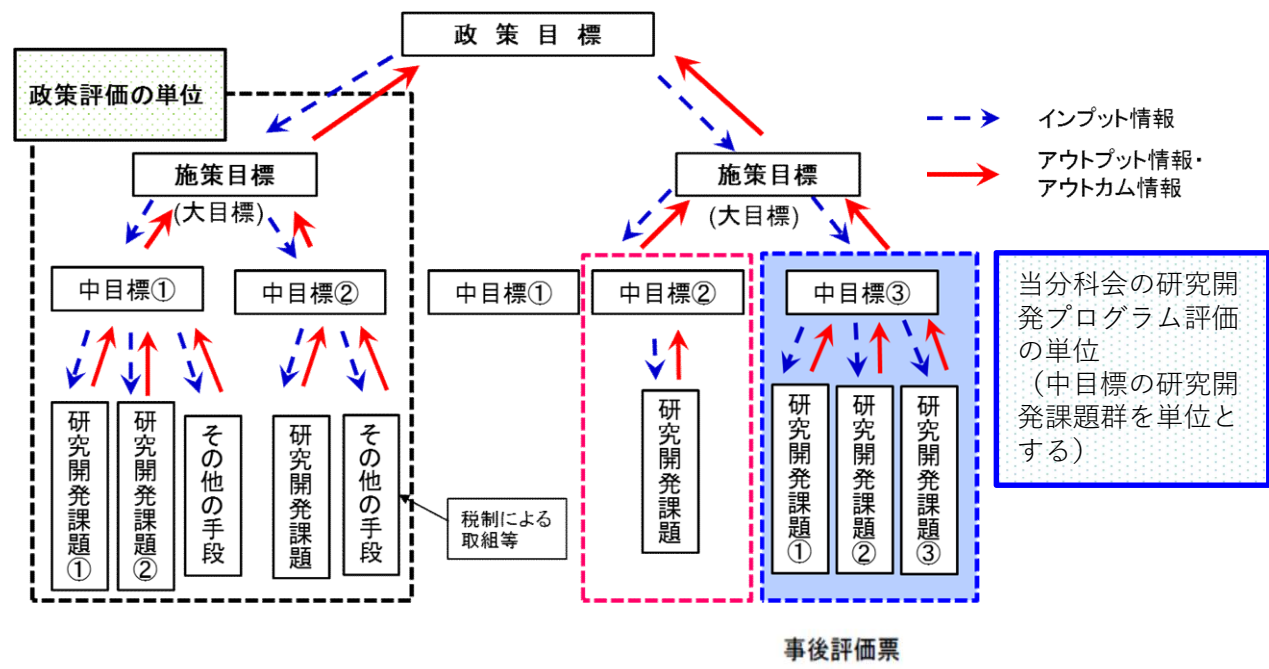
## 3. 我が国全体の状況を把握するための参考指標の検討状況(資料2-2)

プログラム評価時の参考とするため、傘下の各委員会において参考指標を検討した結果、サブジェクトカテゴリごとの論文数、キーワード検索による論文数、特許出願数等のほか、現段階で定量的に把握しうる適切な指標はないとする委員会もあるなど、分野によっては評価の参考に活用できる指標もあるが、一律的に我が国全体の状況を把握する指標の設定・活用は難しく、今後、プログラム評価の進捗に当たり必要に応じて改めて検討することも考えられる。

# 研究開発プログラム評価の方法（案） 1/2

第5期科学技術基本計画の下に俯瞰的な評価を行うため、研究開発計画に掲げる目標ごとに各委員会における研究開発評価を活用し、効率的な研究開発プログラム評価を次のように実施する。

1. 中目標の活動単位を当分科会で評価を実施している研究開発課題群に限定して研究開発プログラムとする。



2. 研究開発課題の評価票（事前・中間・事後）に、研究開発プログラム評価のポイントとなる科学技術基本計画への貢献見込みや貢献状況を追記する。（様式変更）

(平成〇〇年〇〇月現在)

|  |
|--|
| 1. 課題名 〇〇・・・・  |
| 2. 研究開発計画との関係  |
| 施策目標：〇〇・・・・<br>大目標（概要）：〇〇・・・・<br>中目標（概要）：〇〇・・・・<br>重点的に推進すべき研究開発の取組（概要）：〇〇・・・・<br>本課題が関係するアウトプット指標：<br>本課題が関係するアウトカム指標：<br><small>※各々の指標について過去3年程度の状況を簡潔に記載し、評価の参考とする。</small> |
| 3. 評価結果  |
| (1) 課題の達成状況  |
| (2) 大目標への貢献状況  |
| ※ 大目標（科学技術基本計画）にどう貢献したか簡潔に記載する。  |
| (3) 総合評価   |
| (1) 総合評価   |

評価票（事前・中間・事後）に大目標への貢献見込みや貢献状況について記載する欄を追加する。

3. 当分科会事務局が、年度ごとにその年度に実施した研究開発課題の評価結果を施策目標ごとに取りまとめる。
4. 年度ごとに取りまとめた一覧は、当分科会において報告し、意見を聴取することにより、目標達成のために必要な取組の改善や次の研究開発課題等の立案の示唆を得る。
5. また、当分科会において、施策目標ごとに取りまとめた一覧を経年的に並べて科学技術基本計画をフォローアップする。
6. 当分科会事務局は、4. 及び5. を傘下各委員会にフィードバックする。

年度ごとに施策目標単位で研究開発課題評価結果を取りまとめたイメージ

## 今後の検討課題

1. 評価の進め方  
年度ごとの「研究開発課題の評価実施状況」を当分科会で議論し、得られた意見・示唆等を各委員会にフィードバックする等
2. 評価の時期  
年度の最終開催時又は年度明け最初の開催時 等

□ : プログラムの単位 (中目標単位)

| 平成30年度研究開発課題評価実施状況   |  |                            |       |  |                    |             |
|--|--|----------------------------|-------|--|--------------------|-------------|
| 施策目標9-1: 未来社会を見据えた先端基盤技術の強化  |  |                            |       |  |                    |             |
| 大目標  |  |                            |       |  |                    |             |
| ICTを最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間(現実世界)とを融合させた取組により、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来社会の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を更に深化させつつ「Society 5.0」として強気に推進し、世界に先駆けて超スマート社会を実現していく。このため、国は、超スマート社会サービスプラットフォームの構築に必要な基盤技術及び個別システムにおいて新たな価値創出のコアとなり現実世界で機能する基盤技術について強化を図る。 |  |                            |       |  |                    |             |
| 中目標の達成状況の測定指標  | 事業名                                    | 事業期間及び予算規模                 | 評価の種類 | 科学技術基本計画への貢献状況   | 担当委員会              | 備考          |
| 中目標①(情報科学技術分野)<br>情報分野における論文数:<br>H27年度○本<br>H28年度○本<br>H29年度○本<br>社会実装され、社会の基盤構築につながった研究開発のテーマ数:<br>H27年度○テーマ<br>H28年度○テーマ<br>H29年度○テーマ   | AIP:人工知能/ビッグデータ/10T/サイバーセキュリティ統合プロジェクト | H28~H37<br>総額未定(H30: 〇〇億円) | 中間評価  | 人工知能、ビッグデータ、IoT、サイバーセキュリティ等の最先端の情報科学技術と様々な応用分野を統合したオープンなプラットフォームを形成する研究開発拠点の構築が進んでおり、今後、成果の社会実装が進んでいくことが見込まれ、Society5.0に貢献すると思われる。 | 情報科学技術委員会          | 事業Bが後継事業    |
|  | 事業A                                    | H26~H30<br>総額〇〇億円          | 事後評価  | 本事業により〇〇の成果が得られ、〇〇の著しい進展がみられた。   |                    |             |
|  | 事業B                                    | H31~H35<br>総額未定            | 事前評価  | 本事業により〇〇の成果が得られることが期待でき、〇〇に貢献することが見込まれる。   |                    |             |
| 中目標②(ナノテクノロジー・材料科学技術分野)<br>技術支援件数:<br>H27〇件<br>H28〇件<br>H29〇件<br>参画研究者数:<br>H27〇〇人<br>H28〇〇人<br>H29〇〇人   | ナノテクノロジー・材料科学技術の戦略的研究開発・基盤整備           | H24~H33、<br>研究総額未定(H30〇億)  | 中間評価  | 若手研究者を含む産学官の利用者に対する技術支援に貢献するとともに、研究者や技術支援者等の育成及び流動性向上が順調に進んでおり、科学技術基本計画に効果的に貢献していると思われる。   | ナノテクノロジー・材料科学技術委員会 |             |
|  | 事業C                                    | H31~H35<br>総額〇〇億円          | 事前評価  | 本事業により〇〇の成果が得られることが期待でき、〇〇に貢献することが見込まれる。   |                    |             |
| 中目標③(量子科学技術分野)   |  |                            |       |  | 量子科学技術委員会          | 今年度評価対象事業なし |